

青井記念館美術館

はぐくみ会だより

第 40 号

平成27年11月1日

開館二十周年を迎えて

青井記念館美術館はぐくみ会

会長 玉井 晶 夫



高岡市美術館と隣接する当青井記念館美術館は、本校創立100周年の記念事業の一環として、平成6年に旧青井記念館を移転新築、今年で20年を超えました。

当館の所蔵する美術作品は、初代校長の納富介次郎先生をはじめ、山崎覚太郎氏、人間国宝であった金森映井智氏などの教職員の作品や、卒業後各部門で活躍され日本芸術院賞を受賞した、佐々木大樹、郷倉千朝、山崎覚太郎、大角勲の各氏、さらに日本芸術院会員の藤森兼明氏からは合計8点もの大作が今年度まで当校に寄

贈いただいたものなど、日本を代表する作家の作品を920点以上収集しております。

これらの作品は旧青井記念館の時代には、年一回の学校祭「尚美展」の折に公開していましたが、美術館開館を機に年間を通して一般公開され、広く県内外親しまれる美術館をめざして、様々な活動を行っております。

また、中学生を対象にした美術展、青井中美展を毎年実施しており、青少年の美術教育の推進に役立っております。

今後共、はぐくみ会を通しての美術館をご理解いただくとともに、青井記念館美術館に温かいご支援、ご協力をいただいている会員の方々に日頃のお礼を申し上げます。

株式会社アキデザイン代表取締役
(財)富山県デザイン協会理事

玉井 晶 夫

「青井記念館美術館 満二十歳」

学校長 菊池政則

早いもので、現在の青井記念館美術館が、平成6年の1994年9月に移転新築されてから、20年が経ちました。人間で言えば満二十歳となります。初代の青井記念館が本校OBの故青井忠治氏のご寄付により建てられたのが昭和38年の1963年ですから、それから数えると52年目ということになります。

現在の記念館は収蔵品も数多く、平成27年9月現在、920余点に達しています。特に、本校卒業生の作品が多いのが特徴で、重要無形文化財保持者(人間国宝)の金森映井智、そして日本芸術院受賞の佐々木大樹、郷倉千靱、山崎覚太郎、山室百世、大角勲、藤森兼明など本校出身各氏の作品も多数所蔵しています。本校生徒は、この偉大な先輩の本物の芸術作品の数々を、常に間近で見ることができるとはもろろん、本校の建学の精神である、より高きを求めてやまない「尚美」の精神を実感し、体現できる場として、青井記念館美術館に足を運んでいます。

また、その特徴の一つとして、美術工芸作品コンクールがあげられます。これは、県下中学生を対象に美術作品を公募し、作品を展示し、優秀作品を表彰するもので、「青井中美展」と呼ばれています。記念館が新築された創立100周年を機に開催され、今年で第22回を迎えています。

このように、青井記念館美術館は、本物に触れる生きた学習の場、地域の文化交流を行う場としての機能とともに、本県の芸術文化を推し進める場として、さらに飛躍が期待されており、高校に附属する特色ある美術館として異彩を放っています。今後も、この美術館を大事な宝として、育てていきたいと考えています。終わりに、会員の皆様には深い敬意と感謝の意を表しますとともに、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。満二十歳を迎えた美術館に添える言葉といたします。

同窓生ギャラリー

第95回

4月4日(土)～5月6日(水)

第8回 青勇会展

昭和33年窯業科卒業の太田紀久雄氏が代表を務める青湧会が、第8回展を開催した。

青や白のコントラストが美しい器やペン画、半透明のアクリル板を使って幻想風景を立体的に表現した油絵など多彩な作品が出品された。また、賛助作品として、高校時代の恩師である池上栄一先生の作品も出品された。



太田紀久雄 昭和33年窯業科卒

青湧会展も8回を終える事が出来ました。これら皆様の協力があればこそ感謝せずにはいられません。期間中に、一年生のデザイン・絵画科の生徒がきて、将来漫画家になりたいと中学生時代に描いた人物画二、三枚見せてくれました。中学生とは思えないすばらしい描写に感動したので、全てはデッサンが基本だと伝え、また、目標をもって進めば夢は叶うと激励しました。最後に彼女と握手をした時、握手が強いので思わず涙がでました。(中略)

青湧会展でいろいろな人と出会いがあり、毎回友人が増えている事が嬉しくて成りません。体の元気な間は継続していきたいと思っています。

第96回

5月16日(土)～6月7日(日)

工芸建築科同窓会・作品展2015

建築科同窓会は2,300名を超え、県内の建築界を中心に各分野で活躍している。今回は、建築科卒業生だけでなく、現役高校生や工芸高校卒業生の建築作品など40点余の作品が展示された。中でも、考古学界で注目を浴びた西井さんの遺跡発見のパネルや婦人雑誌のコンペで入賞した携帯茶室は、会期中に2回のお茶会が開催されるなど場を盛り上げた。

(昭和55年建築科卒 川合光行記)

三年 建築科 吉田 未歩

私が一番印象に残った作品は、雲空間設計スタジオの携帯茶室は空庵です。この作品は、三畳間の手頃な大きさで何も無い所に30分で建てられます。森の中、桜の木の下で花見、紅葉を見ながらなど楽しみの幅が無限に広がります。

茶道だけでなく、華道、書道など自分の時間をいづれどこでも作り出せるところに魅力を感じました。

この作品展で、さまざまな人の考え方や発想を知ることが出来、勉強になりました。また、たくさんの方の卒業生の方の活躍があることを知り、工芸高校生であることに誇りを持ちました。



特別展

藤本 弘（藤子・F・不二雄）展

生誕80周年を記念として、藤子・F・不二雄展を高岡市美術館と共に開催出来た。今回は二回目、誕生から高校生活を中心に作品・写真・資料が展示された。その中には、ドレーモンに会える街づくりが進む高岡市内の大型シオラマ、生家を再現したミニチュア模型、当時の電気科の実習機器や実際に扱った配電盤など初会にないものも多数公開された。



成瀬 潔

昭和34年電気卒

開催が大型連休と重なったこともあり、多くの来館者に来て頂いた。藤本弘氏のふるさと高岡での生活の様子や高校時代の雰囲気などを感じて頂いたと思う。これからも、我らの母校、工芸高校の偉人のひとりである彼の業績を語り続けていきたい。

4月4日(土)～5月6日(水)

第97回

頭川 徹展

6月13日(土)～6月28日(日)

頭川徹氏は本校図案絵画科を昭和30年卒業、民間企業でデザインを担当する傍ら、制作活動を積み重ね、日展にも幾度の入選をし活躍されている。光と影の魅力と光の広がりテーマとして、山野、港、船、ベネチアの風景など70点余の作品を展示した。



第99回

第8回「夢散歩」展

9月12日(土)～10月4日(日)

豊本外良氏（昭和43年電気科卒業）が主宰する「夢散歩」展は今年で8回目の開催となった。磯部正子、田村紀子、岡山 寛、本郷正典、豊本外良（洋画）、磯部敏彦（写真）、草島誠一（陶芸）各氏の7名、制作活動の成果を発表した。

豊本 外良

昭和43年電気科卒

今年度も展示会を開くことができ、感謝しています。私たちは日頃の制作活動に取り組んでおります。その成果を発表し、「夢散歩」の参加者同士が作品を通して交流を深めることで生涯学習の輪を広げていきます。

日常生活の中で「ふと空を見上げるような心のゆとり」「少年少女のような好奇心とユーモアをもって社会を映す心」「孤独感、虚無感、社会の矛盾」を表現したり常に日常社会の比喩が続けていきます。

第98回

佐藤カオル子展

8月8日(土)～8月23日(日)

佐藤カオル氏は本校デザイン科を昭和39年卒業。1982年より林清納先生に師事し現在に至っている。今回は、「夢時間」と題して、2011年より書きためたピエロや子供を鮮やかな色彩で描いた作品やフランス・パリや奈良県を題材にした油絵30点余りを展示した。

佐藤 薫子

昭和39年デザイン科卒



私は昭和39年第1回デザイン科の卒業生です。平成23年に続いて2回目の同窓生展示会を無事終了することができました。この期間に多くの方々より励ましの言葉を頂いたり、新たな出会いがあったりと日々充実していました。これからも自分の納得のいく作品作りに励み、日々努力していきたいと思っております。

展示会の開催にあたり、応援して頂いた方々や家族に深く感謝しております。



平成27年度 コレクションII

9月20日(土)~10月25日(日)

新所蔵品展

平成26年度の寄贈作品の展示を実施した。

藤森兼明

略歴：昭和29年図案科卒

昭和33年金沢美術大学油絵科卒

平成20年日本芸術院受賞、日本芸術院会員

平成26年日展副理事長就任

寄贈作品

妹の秀作、午後のひととき、イコンのある棚、聖者のノクターン、カーリー工追想、善き羊飼いの敬慕、アドレシオン・サンタポリナール、又オヴォ

紺 良吉

略歴：昭和22年~昭和40年図案科 教諭

寄贈作品

宿坊大橋、八尾より山田村へ、祭、山雲、聖親世首像

平成27年度 コレクションI

6月13日(土)~6月28日(日)・
8月8日(土)~8月30日(日)

山水画と風景画展

初代校長納富介次郎

の「山水の図」、与謝

蕪村の「青緑山水図」

の軸、高岡漆器を代表

される勇助塗りなどと

大正、昭和初期の本校

卒業生の作品を

中心に日本画10

点、洋画5点、

工芸2点を展示

した。



文化部合同展 2015

7月9日(木)~7月30日(木)

生徒たちの日ごろの活動成果を発表する同展に、美術部、クラブ部、写真部、書道部、陶芸部、デザイン研究部、機械工学部、電子機械工学部、電気工学部、建築工学部、土木環境工学部の作品が展示された。

高岡市民美術展で入賞、入選した生徒の作品も多数展示、充実した活動ぶりを感じさせた。



○平成26年度 寄贈作品紹介

コレクション展で新収蔵作品として企画し、お披露目しました。

・藤森兼明

・紺 良吉

・畑 正吉

略歴：明治33年木材彫刻科卒、明治39年東京美術学校卒、東京美術学校教授、東京高等工芸学校教授、造幣局各嘱託

出品作品

牛・葵上・熊野・翁・能面 他 32点

催事案内

- ・第22回青井中美展
11月12日(木)~11月29日(日)
- ・コレクション展Ⅲ期
(江戸期から現代までの金工展)
12月12日(土)~2月7日(日)
- ・企画展
自主制作作品展(本校デザイン・絵画科)
1月16日(土)~
1月17日(日)
- ・卒業課題研究作品展
3月中旬
- ・コレクション展Ⅳ期 (畑 正吉展)
2月20日(土)~3月4日(金)
3月12日(土)~4月10日(日)

編集後記

特別展 藤本 弘(藤子・F・不二雄)展から始まった展示会ですが、気がつけばもう半年がすぎました。

収蔵作品、同窓生ギャラリーの展示会での作品を地域の方や本校生徒に鑑賞してもらい、満足して頂きたいと思っています。また、より充実した内容になるように創意工夫していきたいと思っています。

当美術館では皆様のご意見を展示内容に反映させていきたいと思っています。ご意見、ご希望があれば是非お聞かせ下さい。

本年度より山本実氏のを引き継ぎ、館長を務めることになりました。よろしくお願ひします。

(館長 浦上 樹)

編集発行

富山県立高岡工芸高等学校
青井記念館美術館はぐくみ会

住所 933-8518 高岡市中川一丁目二〇番地
TEL (076) 221-1630 (内線 611)
FAX (076) 221-1631